

「自分事として考えるために」

取組の内容

南相馬市立原町第二小学校
本校では、月1回のサービス倫理委員会を中心として、不祥事根絶に向け「職場の力」を高める取組を行っています。

◆ 自己を見つめる「振り返りシート」の活用 ◆

毎学期末に、自己の言動を客観的に捉える振り返りを行っています。課題を明らかにし、全職員で克服に向けてできることを再確認し「不祥事ゼロ」を目指しています。

◆ 事例研修会の手法を工夫 ◆

事例研修会では、取り上げる事例により全体での協議やグループロールプレイング等、手法を工夫して行っています。事例についてそれぞれの立場から考えることにより、「当事者意識」「危機意識」を更に高めることができています。フィードバックでは、「未然防止のために同僚としてできることはないか」の視点から、実践化につながる意見交流を行っています。

原町第二小学校
不祥事「0」を職場の力で ~自分を客観視してみよう~
「自分ならどうするか」「自分のやり方は正しいのか」「自分はどのように見られているのか」

No.	振り返り項目	A B C D			
		絶対 大丈夫	大丈夫	やや不安	不安
1	【当事者・危機意識】 不祥事を決して他人事と捉えず、自分にも起こり得るものと自分事して捉え、不祥事を起こさないよう注意している。				
2	【風通しのよい職場づくり】 職場でのコミュニケーションを密にし、気軽に相談したり互いの言動について建設的に指摘したりできる人間関係づくりを努めている。				
3	【バツバツ】 事故の受け止め方は世代や個人により異なる可能性があることから相手の人格や尊厳を害し相手に精神的・身体的苦痛を与えるような言動はしない。 (不祥事)				

被害児童だったら？

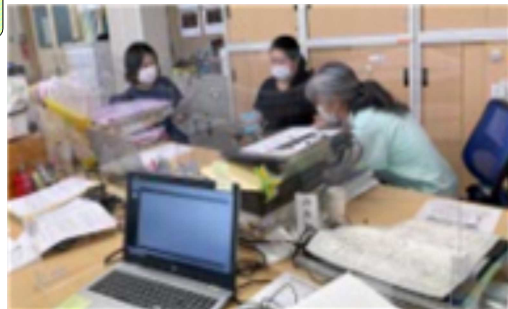
保護者だったら？



加害者の同僚
だったら？

加害者の家族
だったら？

わいせつ事例から考える
(世代を超えたグルーピング)



3人組グループロールプレイング
(2人のやりとりを見るオブザーバー)

◆ 日常における意識化を図る ◆

教職員全員が「交通事故発生時対応マニュアル」を携帯しています。出退勤時やプライベートでのゆとりある運転はもちろんのこと、万が一の事故に備えることにより、不祥事をより自分事として捉えることができます。

今後に向けて

本校では、「教職員の年齢層が幅広い」という課題から、同僚性の構築に向け、コミュニケーションの活性化を目的とした共通性のある話題提供や、協働する場を意図的に設定してきました。今後も、教職員同士の望ましい人間関係を土台として、不祥事根絶体制の確立を進めていきます。

令和4年度 原町第二小学校 交通事故発生時対応マニュアル

- 現場での対応 → 落ち着いて、次の対応をする。
 - 車を安全な場所に移動 (安全確保)
 - 負傷者の有無と負傷の程度を確認 (人命第一)
 - 負傷者がいる場合は、応急処置 (特別)
 - 必要に応じて救急車(119)を要請 (:)
 - 警察(110)に事故発生の通報 (:)
 - 教頭へ第1報 (:)



- 教頭への指示を受ける 不在時は校長に連絡
- 家族に連絡
- 保険会社に連絡
- 警察の事情聴取に立ち会う (:)
- 必要事項をメモ、可能な範囲で記録
- 教頭へ第2報 → 指示を受ける (:)

2 当日以降の対応

- 示談交渉等の事後処理は、誠意を持って対応する。
- 事後処理は、加入している保険会社、弁護士、公的な相談機関を介して行う。

3 重要事項

- 事故が発生したら、加害・被害を問わず、直ちに管理職に連絡する。
- 事故を起こした「自分の運転ミス」の認識となる。
- 外観から負傷の有無を確認し、必要に応じて救急車を要請する。
- 必ず警察に連絡
- 絶対にしないこと： 警察の事情聴取に立ち会わないこと、警察官の指示が、できれば事故発生時系列で記録しておくこと。

事故発生時のメモ (何事も起こらないことを祈ります)

1 乗客乗員目録 _____

2 乗客乗員目録 / 乗客乗員目録 _____